学校だより 第440号 令和６年 ２月号

# 牧小だより

子供のよさを見つけ、引き出し、つないで拓く

↑行事写真を
ご覧いただけます

## ■干支「甲辰」は、様々な成功や成長の種子がどんどん大きくなり、実る意

新しい１年が、芽吹き実る日々であるようにと迎えた元日は、突然の大きな地震によって暗転しました。

被災された皆様にお見舞いを申し上げます。自宅で寝起きでき、暖も取れ、水の心配をしなくてもよい生活を当たり前ではないと感じます。また、学校が避難所となって学校生活に制限が強いられているニュースや中学生が親子で涙しながら集団避難をしていくニュースを見ると、少しでも早く日常を取り戻して安心して学校生活が送れるようになることを願うばかりです。このことは、改めて有事の際の子供たちへの対応、居場所づくりについて考える機会となりました。

さて、１月中旬の昼休み後半に、事前の予告をしないで地震発生を想定したショート訓練を行いました。運動場で遊んでいた子供たちはすぐに遊びをやめて運動場の中央に集まって身を守る姿勢をとり、校舎内で過ごしていた子供たちは近くの机の下に入って頭を守りました。これまでもショート訓練を繰り返し行っており、俊敏に命を守る行動がとれるようになってきています。また、３月には岐阜県広域防災センター所有の地震体験車をお借りして避難訓練と地震体験を計画しています。荷台部分に装備された振動台が実際の地震のように振動することで地震を体験することができ、体験車に４人ずつ乗って地震体験をさせていただいて地震への備えについて学ぶ予定です。前回の煙体験と同様に、疑似体験による知識が子供たちの力になればと考えています。

## ■子供たちの成長

学校生活の中で休み時間が一番楽しいという子供から、もっと休み時間を長くしてほしいと言われました。別の子供からは、秋休みがほしいと言われました。子供らしい願いです。一方で、休み時間の終わりのチャイムが鳴るとすぐに教室に走っていく子供たち、掃除をする子供たち、下学年にやさしく接している子供たちの様子を合わせて考えると、子供たちが我慢をしたりもめごとがあって気持ちが沈んだりすることがあっても、毎日登校して学校生活の中で学ぶ意味を再確認できます。休み時間が長くならなくても、秋休みができなくても、子供たちは楽しそうにしています。

ＰＴＡ子育て委員会のみなさんの読み聞かせの時間にも気付いたことがあります。家庭にいるような気持ちなのでしょう、ゆったりとした様子で読み聞かせに聞き入っています。紙芝居の内容に思い思いに反応しながら何度もざわざわするのですが、ある程度の時間が過ぎると次第に話をやめて紙芝居の続きに注目し始めます。子供たちが感じたことを遠慮せずに素直に反応する様子は、マスク着用もあってかコロナ禍では見られなくなっていました。その回復を感じてうれしくなりました。わが子に語りかけるような読み聞かせをしてくださる保護者の方の力があってのことです。音楽室での読み聞かせが終わると、すぐに高学年が学習用の机を音楽室に戻してくれる様子もたくましく感じました。また、先日、１年生とかるた取り遊びをすることがありました。わたしが読み札を読んで進める途中、１枚のかるたに触っている複数の手の持ち主が言い争いながらも、一人も涙を流さずに終わりました。お手つきした時はふくれっ面をしながらもルールを守っています。自分の思いを通すのではなく、仲間に譲ったりよい方法を考えたりできる姿を見ると、これはほんの一例ですが、子供たちは仲間との学校生活を通して教科以外にもたくさん勉強をしているのだと知ります。

休日に学校に来る用がありました。児童玄関を閉めて帰ろうとすると、運動場で活動していた少年団の子供から、「さようなら、また明日」という声が聞こえてきました。背中を丸めて歩いていたので、背筋が伸びました。

校長　古市　諭香

**※訂正**　牧小だよりの号数が５年４月号から間違っておりました。今月号から正しく直しております。